

令和4年度 仙台市立台原小学校学校教育プラン

仙台市立台原小学校

1 基本姿勢

「仙台市教育構想2022」や「令和4年度杜の都の学校教育」に基づき、児童が主体的に考え、多様な人々と協働しながら学ぶ態度を育成するとともに、予測が難しく様々な変化が起こる時代の中で、困難に向き合ったときにも、強い意志や知恵で乗り越えるたくましさや、柔軟に対応するしなやかさをもち自立して生きていく力を育てる。

教職員が生き生きと学び続けながら、児童一人一人の力を引き出すことができる環境をつくる。

また、家庭や地域との連携を強め地域社会の教育力を取り込みながら、地域に開かれた特色ある学校づくりに取り組む。

2 基本方針

児童の実態と地域の実情を踏まえ、育成を目指す資質・能力を明確にし、創意に満ち調和のとれた教育課程の編成と、その実践を通して児童一人一人に「生きる力」を育成する。

- (1) 子供たちが未来を拓くための資質・能力を確実に育成することを目指し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成に向けて教育課程を編成する。
- (2) 教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現等」「学びに向かう力・人間力等」に整理し、学ぶ意義を児童と共に共有しながら各教科等の実践を行う。
- (3) 目指す資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。
- (4) 児童・学校・地域等の実態を適切に把握し、学習内容や時間、指導の手立て、人的・物的体制等、振り返りと評価・改善を通して教育活動の質を向上させていくために、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努める。
- (5) GIGA スクール構想を受け、情報を主体的に使いこなす力を育成し、ICT を活用した協働的で一人一人に適切な学びの推進を目指す。
- (6) 特別支援学級在籍児童、不登校や発達に障害を抱える児童等、個別の支援を要する児童に対し、家庭との連携を図りながら校内支援の充実を図る。
- (7) 組織力を高め、児童・職員にとって安全で楽しい学校づくりを目指す。
- (8) 家庭・地域及び関係機関と連携・協働しながら、明らかにした資質・能力の定着を目指していく。
- (9) 資質・能力の育成のために必要な教育活動は、感染症対策を十分に行い、工夫しながら実施していく。

3 学校教育目標

夢を叶え、実社会で幸せに生きる力の育成

4 令和4年度 育成を目指す資質・能力

自ら考え、共に学びながら表現・行動する力

5 令和4年度 重点的に育成を目指す力

深い学び 主体的に考え、仲間と共に問題解決する力（校内研究）
◇実社会で活用できる知識・技能を身に付けている。（知識・技能）
◇様々な考え方に触れ、協力しながら問題解決する力を身に付けている。（思考力・判断力・表現力）
◇自分の学習の状況を把握し、試行錯誤しながら主体的に学習に取り組む力を身に付けている。（学びに向かう力、人間性等）

優しい心 自分や互いの良さを認める力
◇学級活動、児童会活動を通して、互いの良さや可能性を発揮しながら合意形成の仕方を身に付けている。
◇時と場に応じたあいさつや相手を思いやる言葉遣いができる。（協働型学校評価目標）

たくましい体 体・脳を安定させる力
◇基本的な生活習慣を身に付けている。
◇計画的・継続的に体力づくりに励んでいる。
◇バランスよく食べる食習慣を身に付けている。

6 令和4年度 協働型学校評価 重点目標

「時と場に応じた言葉遣いをしよう」

7 教育プランを支えるために

目標は焦点化し、すべての職員・児童が進むべき方向を明確にして学校運営に関わり、家庭・地域と連携しながら、すべての職員・児童で学校をつくる。

教育環境

(1) 教職員がより児童に向き合える体制づくり

○教育課程の編成を工夫する

- ・しなければならないこと
- ・した方がいいこと
- ・しなくてもいいこと
- ・スクラップ & ビルド
- ・より効果的なタイムテーブル

○行事や会議を精選する

- ・本当に必要かどうか
- ・時間を決めて、効率よく

○組織的に対応する

- ・個人負担が過重にならないように
- ・速やかな報・連・相・報（確）の徹底
- ・必要に応じたケース会議の実施

○学校事務の効率化を図る

- ・校務支援システム、onenote等の活用

○積極的に地域の協力を得る

- ・学習支援ボランティア、SSS等の活用

○業務を分担する

- ・力を発揮する校務分掌
- ・ミドルリーダーの学校経営への参画
- ・一部教科担任制の実施
- ・教育職員以外の職員の学校運営への参画

○効果的な学校予算を執行する

- ・「自ら考え、共に学びながら 表現・行動する力」を育成するために必要な環境の精査
- ・事務職員と連携した効果的な学校予算の執行

○施設設備等の環境整備をする

- ・業務の効率と職員の意欲向上のため

(2) 資質・力量の向上

○カリキュラムマネジメントを推進する

- ・教科を横断しながら
- ・人材や資源を効果的に
- ・PDCA サイクルを
- ・「自ら考え、共に学びながら 表現・行動する力」を育成するためのカリキュラムマネジメントの推進

○日々の授業実践と校内研究を推進する

- ・「自ら考え、共に学びながら 表現・行動する力」を育成するための、日々の授業実践と校内研究の推進

○効果的な OJT を実施する

- ・一人一人のニーズに応じた OJT の実施

○学校運営に積極的に参画する

- ・学校運営に関わることの面白さを経験

○キャリアステージに応じた学び合いをする

- ・キャリアステージに応じた必要な学び

(3) 子どもたちの安全・安心の確保

○学校・家庭・地域・関係機関と連携を図る

- ・情報の共有（共有できる情報かどうか）

○学校事故防止に向けて組織的に取り組む

- ・未然防止・早期発見に重点を置いて
- ・児童が意識を高く持ち、主体的に取り組むようにするための指導

○学校事故に対して迅速に組織的に取り組む

- ・発生した場合の速やかな対応

地域・家庭との連携

1 幼保小・小中連携

- スタートカリキュラムを効果的に実施する
- 「9年間で育む子ども像」を基にした小中連携を図る

2 家庭・地域との連携

- 協働型学校評価への三者の取組を考え、家庭・地域の協力を得る
 - ・家庭や地域への広報・啓発
- 学校支援地域本部との連携・協働を推進する
 - ・通学路における見守り等
- 学校運営協議会
 - ・組織的・継続的な体制の構築
 - ・目標・ビジョンを共有した「協働」活動
 - ・当事者意識・役割分担

